

ビジョン委員会： 柳内龍二 (S38) ,大枝啓介 (S42)、那須原和良 (S54)、
上野浩史 (S61) ,清野隆司 (H02) ,金谷善治 (S42) 《記》

1. 経緯

理工漕艇部の活動理念について、これまでビジョン委員会及びOB諸氏との議論を重ね、その原案を作成し、その後、多くのOB/学生に共感されるべく紹介・意見交換のプロセスを通し、ご意見を反映させ、1次案、2次案、最終案へとその整正化を図ってまいりました。

ここ1年の紹介、意見交換プロセス

- ・初漕ぎ会、碧水会合宿
- ・電子版機関紙「暁」への掲載
- ・碧水会 RC メンバー
- ・現役支援委員会
- ・監督陣
- ・学生
- ・6月14日役員会、第1回卒業年齢幹事会
- ・鳥羽会長
- ・ビジョン委員の同期生等

2. 役員会と総会での承認

- ・ 8月1日の第5回役員会にて 理念最終案が審議・承認され、総会上程決議事項として承認されました。
- ・ この活動理念案をOBの皆さまへ広報し、11月の総会決議事項として事前に提示する為に、本碧水会ホームページに記載させて戴きます。

3. 理工漕艇部の活動理念案

OB会にとって、1961年の創部以来、多くのOBを育んだ理工漕艇部（以下 部）の消長は重大な関心事です。OBは部に活気があれば自然と嬉しく、部活動が部員の心身成長の契機になることを願います。

3年前、幸いにもOBと学生とで創部50周年を祝うことが出来ました。人も活動環境も常に変わってゆく中、50年継続の原動力は暗黙の裡に或いは口伝で継承されてきた「部のあり方や行動指針」への想いです。これからの50年を考える時、この想いを形ある部の「活動理念」に昇華し、OBと学生とで共有することが部の持続的発展に資するものと考え、OB諸氏・学生と議論・検討してまいりました。議論の要点は次の3点です。

- ① 理念には、理工漕艇部の存在意義と‘継承してきた理工らしさ’を表現する
- ② 暗黙の伝承、口伝に頼らず、明文化する
- ③ OBと学生とで共有する

この「活動理念」は、OBから理工漕艇部々員への激励のメッセージです。部員諸君がこの理念を良く体現し、活気ある漕艇部を作り上げるよう期待しています。同時にOB会は、会員諸氏が「活動理念」を尊重すること、及び監督・コーチ陣とOB会役員とが、これを指導理念として念頭に置き、援助・指導に当たるよう希望します。

標語

弱きものは歩け、健康なものは走れ、強きものは競技せよ。

本文

1. 逞しい人材を育てる

理工漕艇部は、自律し、困難に打ち勝つ逞しい人材を育てることを目的として活動する。

学生スポーツの原点に立脚し、勉学とボート活動の両立を目指す。

2. 多様性を尊重する

理工漕艇部は、部員各自の目的、目標、志において多様であることを当然とし、その多様性を尊重する。

如何なる活動環境の下でも、部員の多様性こそが組織の活力と発展の源であると信じる。

3. トップクラスへ挑戦する

理工漕艇部は、地域クラス、全国クラスの競漕はもちろん、時機を得れば、世界クラスそしてオリンピッククラスの競漕へ挑戦する。

理工漕艇部は、挑戦に備えた、真摯でたゆまぬ努力を尊ぶ。

4. 理念とビジョンについて（補足）

この理念は、理工漕艇部の活動指針として唯一のもという位置付けではありません。理念と似た概念でビジョンがあり、「理念」と「ビジョン」は混同され易いが、厳密には別物です。

「理念」は普遍的で、創始者達や後継者達の想いを表し、どのような価値観で行動するかを示すものです。一方「ビジョン」は現状の部や部員の状況を踏まえて、5～10年先のありたい姿で、戦略的な方向性を詳細化するものです。指導者が代われれば見直されるもので、その策定は監督、現役支援委員会、現役が主体となると考えられます。「ビジョン」は「理念」を上位概念としており、今回 まず「理念」を作成したものです。更に 理念、ビジョン以外に、学生自身で部の活動指針を作成することも当然のことです。